栃木県結核・感染症発生動向調査情報

（ｻｰﾍﾞｲﾗﾝｽ）

令和元（2019）年 10 月（週報第 40 週～第 44 週（9/30～11/3））集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1　感染症解析情報　{10 月は 5 週間、9 月は 4 週間、前年同期は 4 週間での比較となります。}

（1）概況

ア.　10 月の報告数は次のとおりです。全数（1～5 類）把握疾病は、**75 件**（9 月は **51 件**）でした。
定点把握疾病のうち週報疾病（インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報）は **1,668 件**（定点あたり **7.14 件／週**）であり、9 月の **1,779 件**（定点あたり **9.58 件／週**）と比較し、週あたり **0.75 倍**とやや低い水準で推移しています。

イ.　栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。（定点把握週報疾病）

疾病名	報告数	前月との比較（週あたり比）	前年同期との比較（週あたり比）
RS ウイルス感染症	**370 件**（週あたり平均 74.00 件）	↓ **（0.50 倍）** 前月は 592 件（週あたり平均 148.00 件）	↑ **（1.17 倍）** ＊前年同月は 253 件（週あたり平均 63.25 件）
感染性胃腸炎	**310 件**（週あたり平均 62.00 件）	↓ **（0.85 倍）** 前月は 293 件（週あたり平均 73.25 件）	→ **（0.93 倍）** ＊前年同月 267 件（週あたり平均 66.75 件）
手足口病	**256 件**（週あたり平均 51.20 件）	↓ **（0.60 倍）** 前月は 339 件（週あたり平均 84.75 件）	↑ **（1.22 倍）** ＊前年同月 168 件（週あたり平均 42.00 件）

① **RS ウイルス感染症**は、前月に比べ報告数が 0.50 倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 1.17 倍とやや高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

② **感染性胃腸炎**は、前月に比べ報告数が 0.85 倍とやや低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 0.93 倍とほぼ同様の水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

③ **手足口病**は、前月に比べ報告数が 0.60 倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で 1.22 倍とやや高い水準で推移しています。全国的には、過去 5 年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

（2）全数（1～5 類）把握疾病情報（全国）

ア.　1 類、2 類及び 3 類疾病

結核 1,666 件(9 月 1,606 件)、細菌性赤痢 9 件（9 月 9 件）、腸管出血性大腸菌感染症 418 件(9 月 524 件)、腸チフス 2 件(9 月 4 件)、パラチフス 1 件(9 月 2 件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ.　4 類・5 類（上位 6 疾病）

順位	疾患名	件数	前月件数
1	百日咳	1,546	1,381
2	梅毒	535	520
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	248	216
4	レジオネラ症	225	266
5	侵襲性肺炎球菌感染症	179	119
6	後天性免疫不全症候群	94	95

ウ.　栃木県では次の報告がありました。（計 75 件）

結核 24 件、腸管出血性大腸菌感染症 4 件、E 型肝炎 1 件、レジオネラ症 4 件、アメーバ赤痢 1 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2 件、急性脳炎 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群1件、侵襲性肺炎球菌感染症 3 件、水痘（入院例）1 件、梅毒 7 件、百日咳 25 件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります

２　疾病の予防解説

後天性免疫不全症候群（エイズ）とインフルエンザについて解説します。

後天性免疫不全症候群（エイズ）は感染症法に基づく5類感染症全数把握疾病です。また、インフルエンザは、感染症法に基づく5類感染症定点把握疾病です。

なお、県内の 5 カ所の広域健康福祉センター及び宇都宮市保健所では、HIV/AIDS の検査や梅毒の検査を匿名・無料で受けることができます。予約が必要な場合がありますので、事前に検査実施日時を確認し検査を受けるようにしましょう。

●県内の性感染症検査実施日時は、下記の栃木県ホームページから確認できます。

栃木県 ホームページ http://www.pref.tochigi.lg.jp/e04/welfare/hoken-eisei/kansen/hp/hivkensa.html

疾病名	原因と潜伏期間	症状や特徴	予防対策
後天性免疫不全症候群	ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus; ＨＩＶ） 2～3 週間（感染初期）	HIV 感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、エイズ発症期の 3 期に分けられます。感染初期（急性期）は発熱、咽頭痛、筋肉痛、皮疹、リンパ節腫脹、頭痛などがあり、その後、数年～10 年間ほどの無症候期があります。感染後、抗 HIV 療法が行われないと日和見感染症や悪性腫瘍を発症するエイズ発症期となります。日本では感染経路のほとんどは性行為で、まれに、母子感染や血液感染があります。	HIV は 3 つの感染経路でしかうつりません。この病気を予防するためには、まずきちんとした知識や理解をもつことが大切です。HIV の予防は、感染者との性行為を避けることが基本です。コンドームは、正しく使用しましょう。特に不特定多数との性行為は避け、気になる症状がある場合には、パートナーとともに検査を受けることをお勧めします。また、かみそりや歯ブラシなど、血液が付着しやすいものの共有は避けましょう。
インフルエンザ	インフルエンザウイルス 1～3 日間	38℃以上の発熱と、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻水、咳など一般的な風邪と同じような症状も見られます。感染経路は、咳などで飛び散ったウイルスを吸い込んで感染する（飛沫感染）ほか、ウイルスが付着したドアノブなどに触れて感染する（接触感染）場合などがあります。例年１月～３月頃にかけて患者数が増加する傾向が見られます。	石けんによる手洗いや、手指消毒が重要です。室内では、加湿器などで適度な湿度（50～60%）を保つことも効果があります。流行時期は人ごみを避け、外出時はマスクを着用しましょう。咳などの症状のある方はマスクを着用しましょう。症状がある場合、早めに医療機関を受診しましょう。解熱後もウイルスを排出し他の人に感染させる可能性があるため、注意しましょう。インフルエンザワクチンは、重症化防止に有効とされています。

（参考）国立感染症研究所　ホームページ　http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html
厚生労働省 ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/
エイズ予防情報ネット（API-Net）　http://api-net.jfap.or.jp/knowledge/qa_14.html

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

３　その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、10 月に県内で発生した警報および注意報はありませんでした。

※国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位１%以内）に警報が発生されるよう、各疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。